

銑鐵

す商況沈衰せり、されと市場には在品益拂底し、輸入に就

(四)一般需要者の手控へ、(五)八幡製鐵所の賣出約定期の接近、(六)九月十月頃の安値契約物の漸次入荷あること、(七)製鐵事業勃興に伴ふ前途の樂觀等にして、鐵價昂騰の聲餘りに高かりし爲め、建築其他一般鐵材の使用を見合せ若くは節約したるもの少なからざりし上、支那古鐵の輸入頻々たりしは、其量に於てこそ格別の事なけれ、相場の氣勢を殺さしには確かに有力なりしなり。

斯くて一月中は月末に至り幾分跳返しの氣勢を示せしのみにて結局不況に終りしか、内地製は悉く約定済にて、値に拘はらず新規引受拒絕の有様なれども、一月下旬の製鐵

○內國金物商況

鐵の一般市況 前年中暴騰に暴騰を續けし鐵物は十二月上旬に於て其絶頂に達し、中旬に落附き、下旬に崩落し始めしか、新年に入り氣勢揚らす、九鐵四五分物十日頃には十二圓五十錢、十五日には十一圓見當となり、下旬には十二圓臺に落ち最低八圓の相場ありしといふ、之れを十二月中の最高十六圓に比ふれば非常の相違といふへし、斯くて市場尙一段の下落を見るへきかとて、一般に躊躇して買進ま

營共に供給力不十分なること改めて謂ふ迄もなき事なれば漸次競り上來るや必せり、されば現在の鐵價下落は全く一時的現象にして、投賣品の一段落を告ぐると同時に正當需給關係を生し、再び昂騰歩調を辿るものなりとて有力大

手筋は樂觀しつゝあり、成る程月末の市況を見れば大抵下け止まりしやに觀測せらる。

因に米國鐵鋼組合が賣止を發表せし以來、我國の世論頗る喧しく、當業者は揣摩を逞ふし、中には米國海軍擴張の爲め輸出を禁止するなどの説もありしか、右は全く根據なき説には非されとも、結局斯る事の行はるべくもあらず、唯銑、鋼共一噸に付二十五仙の内國稅を課すへしとの議政府部内に起り、或は成立するやも料られざれども、其趣意たる戰時に際し各製鐵所何れも暴利を博しつゝあれは、其利益の一部を納稅せしむに在るへし、而して該組合も一時餘りに註文輻湊せしに驚き賣止の方法に出たれとも、追々落付き來り、組合外の製鐵所にて註文を引受くるものもあり熔鑄爐の新設も續々ありて、本年六七月頃の受渡ならは應し難きに非すとの意向を漏せる由なるか、何分船舶拂底にて輸送困難なる爲、之を引取る能はざる有様なれば今後輸入の能否は一に繋りて船腹の利用如何に在りといふへし。

銅 前月中倫敦相場奔騰して電氣銅百磅臺に吹き出し、遂に百七磅の高直にて越年したる銅價は本月に入り中旬一寸亂調となりしのみにて下旬は復又昂進し、百廿二圓の高直納會を告げ、餘勢尙一段の暴騰を演出し兼ましき氣勢也。

一月五日倫敦相場現物先物共に八十六磅十七志六片、電氣銅百十磅を報し、六日には現物八十八磅十七志六片、先物八十八磅二志六片となりて前年六月の高値を抜き、翌七

日遂に九十磅臺に達せしか、これより暴落して八十五磅となり、又跳返し、波瀾重疊約二週間頗る氣遣はしめたる後二十五日曩の高値に達し、月末二十九日には現物九十一磅二志六片、先物九十磅七志六片に達し、高値持合の有様にて月を終れり、電氣銅は其間割合に變化少なく、七日以降百十四磅に持合ひし後、十九日百十五磅、二十一日百十七磅、二十九日には百二十二磅となれり、明治四十年三月シ一、エム、ビーの百十二磅を報せし時、電氣銅か三磅上鞘を有ちしを空前の高値とせしに、今は遙にそれを超過せり。

本邦相場は最初此氣配に動かされず沈靜して、月初僅に五十錢の値上をなせしのみなりしか、六日に至り五十錢方騰貴して延丁五十七圓五十錢を唱へ、七日復た一圓だけ昇り、十五日倫敦の暴落を入れて五十錢低降し割合に落着き居りしか、下旬に至りては倫敦相場再度の奔騰に堪まらず月末六十七八圓に躍進せり、引續きの昂騰に最早内地手合極めて少なく、露國輸出は從來甚だ盛なりしか、其後爲替決済不能の爲め約定品にして引渡の運に至らざるもの三、四萬噸あり、先約品の事とて轉賣もならず、英國に輸出するには船腹に乏しく始末に困れりとの事なり。

斯る騰貴の原因としては、英國に於ける軍用品の需要多きに本つく事勿論なるか、英國か自國內に電氣精煉所を有せず悉く之れを米國に仰げる事、其主たる原因なるべく、さてこそ特に電氣銅の奔騰を來せしなれ。